

令和元年度 指定管理施設運営状況評価表

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市海と森ふれあい体験館		
指定管理者	団体名	NPO法人シェルフオレスト川内	
	代表者	五十嵐 健志	
	所在地	むつ市川内町川内477番	
指定期間	平成30年 4月 1日 ~ 令和3年 3月 31日 (3年間)		
指定管理業務の概要	むつ市海と森ふれあい体験館の管理運営業務		

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区 分	計 画 額 ①	実 績 額 ②	増 減 (②-①)
収 入 合 計 (A)	15,823	15,720	▲103
うち利用料金額	150	47	▲103
うち指定管理料	15,673	15,673	0
支 出 合 計 (B)	15,823	13,478	▲2,345
うち人件費	12,844	10,675	▲2,169
収支差 (A-B)	0	2,242	2,242
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	納税、決算等のために管理料予算に占める人件費、管理費等の削減に努めたため		

3. 施設利用の状況

単位：人

	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増 減 (②-①)
利用者数	館内および館外活動での利用者(人数)	10,800	7,330	▲3,470
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施(有)無 むつ市民のみならず県内外からの自然体験等での来館者。テレビ・ラジオ番組、講演・展示会などを通じた教育・広報。また他の社会教育機関や大学・研究所等との連携事業、イルカ事業や小学生の授業指導などの広範な活動に対して評価を受けている。野生のイルカ観察会など野外での活動が昨年以上に内容が充実した一方で、「かわうち・まりん・びーち」の夏季閉鎖が利用者数に大きく影響した。				

4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事 業 名	利 用 者 数	収 入	支 出
自然教育プログラム	学校・団体等	—	—
大学との事業・調査研究の連携	—	—	—
教育用動画「陸奥湾のカマイルカたち」制作	—	0	800

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価

評価基準A（優 良）：計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果があった。

B（適 正）：計画された業務水準を概ね達成した。

C（要改善）：計画された業務水準を達成できなかった。

評 価 項 目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	A	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	A	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	A	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	A	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	A	B
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	A	A
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	A	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	A	B
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	A	A
④利用料金の收受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	A	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	A	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	A	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	A	A
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	A	B

6. 指定管理者総合評価 ㊤自己評価をAとした項目の内容及びCとした項目の改善策を記載すること。

- (1) 学校・団体等での利用に関し、その財務力と開催の趣旨を勘案し融通・利便性を図った。
また、ドルフィンウォッチング等野外活動では多くのアンケート調査を行い、またその実施にあたり市観光戦略課等に協力した。
- (2) イルカウォッチング等の野外活動と連動した館の利用を図り、また県内外のテレビ・ラジオ、講演会、観察会等でむつ市および館の活動の広報を行った（NHKさわやか自然百景や陸奥湾市町村の観察会など）。むつわんイルカふれあい協議会との連携、大学と協力して陸奥湾イルカ等の調査研究や県内水面漁場管理委員（全国内水面漁場管理連合会表彰：水産庁）と、それらの実績を館の展示や活動に反映し類似他所にはない魅力あるものとした。
- (3) 職員の能力向上のため救急救命の講習や事業成果の学会発表を指導し行なったほか、修繕や消耗品購入なども指定管理料以外で賄うなど経費削減に努めた。
- (4) 潜水道具をはじめ、活動に要する機器の管理と修繕を自前や他資金を活用し行うなど施設管理経費の削減を行った。また、社会保険労務士の指導のもと、被雇用者の希望・利益を最優先にした。利用料金は前述1の通りで利用者の希望を聞き、柔軟に対応した。
- (5) メディアやHP等を積極的に活用し情報提供を行った。特別救急救命講習を受講したほか、夏季は艇庫前に夜間防犯監視カメラを設置した。

7. 市の所管課総合評価 ㊦市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

イルカ教育活動事業では、「かわうち・まりん・びーち」で行われたイルカ放牧飼育の様子がテレビ・ラジオ番組に取り上げられ、関係者や地域住民に大きな反響を与えた。

ウミナヤイルカの調査研究を精力的に行い、その研究成果を学会で発表したこと、また、陸奥湾に生息する生物や当体験館に関する情報を発信できたことは、市のPRにつながるものであり、一定の評価ができる。

その一方で、自然学校や指導者養成講座については、天候に左右されるものであるものの、参加者の人数が伸び悩んでいる。事業内容等について検討する必要があるものと感じている。

今後は、調査研究と指定事業のバランスをとりながら利用促進に努めていただきたい。